

第2回泉布観旧桜宮公会堂泉布観地区保存活用計画及び耐震診断検討会議 議事録

1. 開催日時： 令和8年2月20日（金）10：00～12：30

2. 開催場所： 大阪市経済戦略局文化課会議室（中央卸売市場業務管理棟内）

3. 出席者（Web参加含む）

メンバー：谷座長、弘本委員、恵谷委員、腰原委員、西川委員、橋寺委員、船越委員

文化庁：浅野調査官（史跡部門）、石田調査官（建造物部門）

大阪府教育庁文化財保護課：萩原副主査、大澤副主査

教育委員会事務局文化財保護課：櫻井主任

経済戦略局文化課：一與課長、弓削課長代理、中村係長、山本係長、笹倉係員

（公財）文化財建造物保存技術協会：丸石、木下、鈴木（律）、國本、岡野

4. 議題

- （1）前回議事の確認
- （2）保存活用計画について
- （3）耐震診断について
- （4）今後のスケジュールについて

5. 議事要旨

【（1）前回議事の確認】

・事務局より、前回議事及び補足資料の説明を行った。

（主な意見）

- ・史跡の敷地全体の変遷を整理していくと保存活用をどのように考えるか示唆が得られる。
- ・仮の名称で「庭」と示される部分があるが、空間やゾーニングを考えたうえで名称を付ける
と良い。
- ・対象となっているエリアの地図や図面が中心になりがちだが、大阪の都市の発展史と極めて
密接に関わるので、もう少し引いた広域の地図等で今回のエリアの特性を掴んだ方が良い。
- ・泉布観以外の煉瓦倉庫も地域にとっては大切なものなので、残し方など考える方が良い。
- ・泉布観は、やはり建物内に入れる活用方法が良いと思う。
- ・史跡と建造物、一体的に考えてそれに適した活用を検討していくべきであろう。

【（2）保存活用計画について】

・事務局より保存活用計画について、計画の概要と文化財の概要について説明した。

（主な意見）

- ・史跡として旧造幣寮、重要文化財として泉布観、旧造幣寮鑄造所正面玄関があり、その本質
的価値をどのように位置づけ、整理していくのが大事である。

- ・史跡と建造物の境界部分について、昔からの外構と最近改修の外構について整理しておいた方が良い。
- ・本質的価値については、史跡の中の重要な構成要素として重要文化財である建造物を捉えていった方が良くもしい。
- ・重要文化財を中心としながら史跡が合わさるような保存活用計画など、類似の事例を参考にしながらまとめていくのも一つかと思われる。
- ・大阪の都市において、この史跡及び建造物が地政学的・地理的にどのようなポジションであったのかを読み取れた方が良くと思う。
- ・事務局は文化庁とも相談しながら、当面の課題と中長期的な課題を記載して行ってほしい。
- ・保護の方針について、旧造幣寮鑄造所正面玄関の保存年代の設定がなかなか難しい。
- ・旧造幣寮鑄造所正面玄関は昭和10年の移築の際に当時の古材を積極的に再利用しているようであり、そうしたことから「移築」ではなく「再建」として整理されている。
- ・泉布観についても明治時代に増築がされていることが資料から分かる。

【(3) 耐震診断について】

- ・事務局より現状までの耐震及び構造調査の報告を資料に沿って行った。
- (主な意見)
- ・不同沈下を再度測定し、近年の沈下ではないとのことだが、沈下の要因をどのように考え、どのように対策を講じるのか、あるいはこのままで良いということなのか。
 - ・(事務局より) 沈下の要因は判明していない状況であるが、今後の対策については、どこまでの沈下を許容するか検討していく必要がある。どこまでの補強工事を行うか今後協議していくこととなる。
 - ・市としては、解体修理ではなく耐震補強であるのならば、今後の調査次第ということであろう。活用のあり方との関りで配慮しなければならないことはどのようなことがあるか。
 - ・(事務局より) 活用方法においていろんなご意見をいただきながら、随時相談しながら進めていく。耐震補強ありき、あるいは活用ありきということではなく、その両方で進めていく。
 - ・耐震補強の問題は、活用や公開の問題と密接に関わってくる。科学的な知見ではどうなのかという点もこれから詰めていかねばならない。

【(4) 今後のスケジュールについて】

次回は5月か6月ぐらいにオンラインも含めて開催するようになりたい。

次回までも専門の委員の方には個別に相談するなどして進めなければならない。

次回以降は防災面の委員にも入っていただく予定である

7. 閉会